（株）トーセン

代表取締役

東泉（とうせん） 清寿（せいじゅ） 氏

林業で脱炭素社会を実現

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、昨年3月ごろから建築用木材の供給が需要に追い付かず、世界的に木材価格が高騰。オイルショックになぞらえた「ウッドショック」という言葉が建設業界を揺るがした。日本の国土の約68％は山林で、豊富な森林資源に恵まれているにもかかわらず、国産木材の自給率は約35％。6割以上を輸入材に頼っている。

「山で伐採された原木は、製材・選別を経て乾燥され、仕上げ加工を施した後に木材として出荷されます。その流通工程のどこにも木材をストックするダムがない。自給率が低いままでは、森林整備も進まず、森林は荒廃し、林業が衰退すれば地域全体が衰退してしまいます」

同社では一貫して木材を製造しダムとしてストックする独自の「母船式木流システム」を構築し、国産木材の安定供給を実現。しかし「個人企業1社だけでは限界がある」と危機感を強める。昨年9月には矢板市と市内の5事業所が木材の安定供給に向けた協定を結び、山そのものを木材のストックヤードとする木材の直販体制を構築。すでに伐採と再造林が始まっている。同時に注力しているのが、林業に携わる若い人材の養成と人材の受け皿整備だ。若い人が安心して働き続けることができる環境を整えるために、大手住宅メーカーに支援を求める活動にも着手。「これからもブレずに林業発展に必要な人づくり、道づくりを継続していく」と熱意はさらに高まっている。

木材の無限の価値をサスティナブルに活用する「エネルフォーレ50」事業推進への地域の期待も大きい。SDGs（持続可能な開発目標）や脱炭素社会の実現など、新たな社会の価値観が同社の事業にとっては追い風となる。すでに7年前には木質バイオマス発電所による売電のほか、近隣工場へ熱を供給。余剰熱は農業へも活用しマンゴーやコーヒー豆の栽培に成功した。山と人をつなぎ、人と人をつなぐ行動力が、林業の可能性をさらに広めていく。

那珂川バイオマス発電所

人と、木と、未来
TOHSEN
株式会社トーセン

〒329-2511　矢板市山田67
☎0287・43・8379